

竹田市西部地区 (Vol. 18) 畑地かんがいだより

[発行]
竹田市西部地区営農振興協議会
(竹田市農政課)
0974-63-4805
(大野川上流開発事業事務所)
0974-68-2723

にんじん播き遅れ対策品種紹介

天候不順などによる播き遅れの対策に有効な品種を検討するため、品種比較を行いました。

供試品種：「夏撒き彩誉」、「品種 A (8 月下旬播種の現地慣行品種)」

調査場所：竹田市菅生 播種日：R5 年 8 月 20 日 収穫日：R5 年 12 月 14 日

畝間 140cm、株間 8cm、概ね 44,000 株/10a

調査結果

1. 各区収量性

処理区	商品果				単収 (kg/10a)	A品率 (%)	L+M+S率 (%)	商品果率 (%)
	根径(上) (cm)	根径(下) (cm)	根長 (cm)	重量 (g)				
夏撒き彩誉	41.1	24.0	14.8	135.4	5956.7	58.7	88.6	83
品種A(対照区)	38.4	20.7	15.3	119.8	5270.7	57.1	78.2	83

2. 各区の等級別割合

処理区	規格(%)					
	3L	2L	L	M	S	2S以下
夏撒き彩誉	0	4	18	41	29	7
品種A(対照区)	0	3	14	29	35	19

収量 12%アップ
(686kg)
M率 12%アップ

3. 各区の規格割合

処理区	B品の内訳(%)		外品の内訳(%)			
	形状	扁平	形状	又根	割れ	大きさ(小)
夏撒き彩誉	69.8	30.2	10.0	63.3	0.0	26.7
品種A(対照区)	77.5	22.5	3.7	55.6	0.0	40.7



- 「夏撒き彩誉」は 8 月下旬播種でも年内収穫が可能
- 栽培期間が短くても先細り果が少ない

(大分県大野川上流開発事業事務所営農改善班)

～水を使って豊かな農業～

新たな侵入害虫トマトキバガの発生状況と対策について

トマトキバガ(以下、本虫)はトマトを中心にナス科植物等に寄生し、葉の食害や果実品質の低下をもたらす南米原産のチョウ目害虫です。日本では 2021 年に熊本県で初めて発生が確認され、2024 年 6 月 12 日現在 40 道府県で発生が確認されています。本県でも 2022 年に確認され、2023 年にはトマトの葉および果実への加害が確認されています。

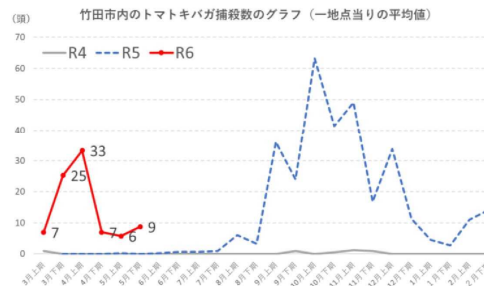
(生態について)

成虫は体長約 5mm、体幅約 1mm、羽を広げても約 10mm と非常に小さなガです。幼虫は 5mm ~8mm 前後で、頭の少し後ろに黒い帯があるのが特徴です。体の色はクリーム色から緑色、淡いピンク色と成長につれて変化していきます。



(昨今の発生状況について)

本虫は他のチョウ目害虫と比較して低温に強く、さらに 2023 年から 2024 年にかけての冬は暖冬傾向にあったことから、12 月以降も継続して確認されています。4 月以降は発生頭数が増加し、一部圃場で苗への発生、6 月にはトマトおよびミニトマトへの食害が認められ、防除の徹底を呼びかけているところです。



左図 フェロモントラップにおけるトマトキバガ捕殺数(令和 4~6 年度)
※調査地点 8 箇所における平均捕殺数

～水を使って豊かな農業～

（食害の見分け方・防除対策について）

本虫はトマト葉の表皮を薄く残して葉肉を食べ進むため、食害痕は葉裏からも透けて確認できます。対して、同じく葉内を食害するハモグリバエ類の食害痕は葉の裏面からは確認できないことから、2種の食害を判別することができます。（右上：各虫の食害痕）



また、本虫がトマトの果肉を食害した場合は食害痕が褐変するため、被害確認のポイントになります。（右中：本虫に食害された果実）



2024年6月現在、トマト、ミニトマトおよびナスで本虫の被害が確認されていますが、海外ではパレシヨ、ピーマン、トウガラシ、インゲンマメなどの作物へ被害をもたらすことがわかっており、家庭菜園などでも、被害をもたらすことも考えられます。また、作物だけではなくイヌホオズキ類などの雑草へも寄生することがわかっており、本県でも雑草への寄生がすでに認められています。

本虫の被害が疑われる葉や果実を発見した場合は、すぐに当班（0974-63-1304）にご連絡いただくとともに、おすすめ農薬表を参考に定期的な防除をお願いします。

トマトキバガ防除におすすめの農薬

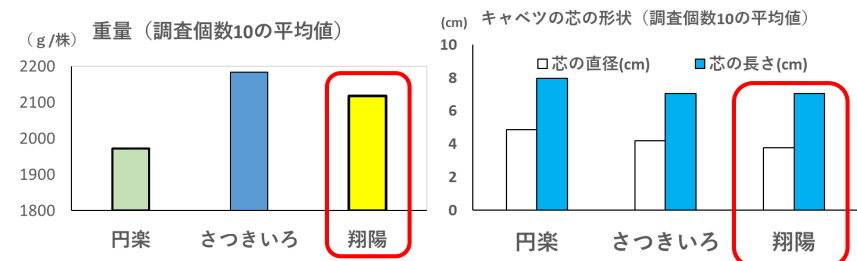
作物名		IRAC コード	農薬名 (商品名)	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
トマト	ミニトマト					
○	○	5	ディアナSC	2500~5000倍	収穫前日まで	合計2回以内
○	○	5	ラディアントSC	2500~5000倍	収穫前日まで	
○	○	6	アフーム乳剤	2000倍	収穫前日まで	5回以内
○	○	13	コテツフロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内
○	×	22A	トルネードエースDF	2000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	30	グレーシア乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	UN	プレオフロアブル	1000倍	収穫前日まで	2回以内

- 農薬使用前に必ずラベルの内容を再確認しましょう。
- 記載希釈倍率、成分回数等を遵守しましょう。

（大分県豊肥振興局生産流通部園芸第二班）

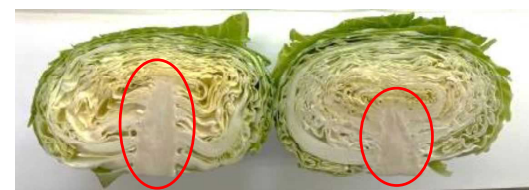
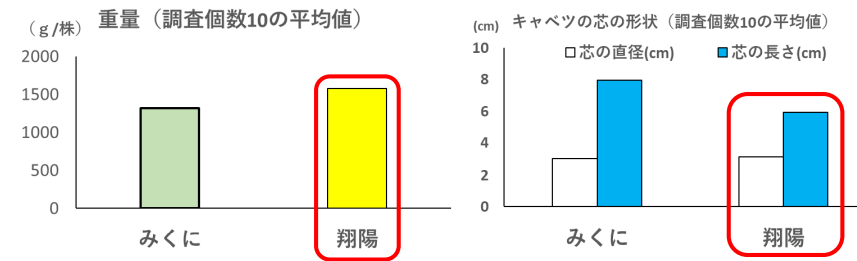
加工用キャベツ品種試験の結果について

- ・生産者協力のもと、品種試験を行いました。
- R4年 初夏どり（令和5年6月19日収穫）



- ・重量や病気発生の点から、「翔陽」が有望と考えられました。

- R5年 初夏どり（令和6年6月18日収穫）



キャベツ横断面（左：みくに、右：翔陽）



翔陽の結球状況

- ・「翔陽」は「みくに」に比べて、重量が大きく有望と考えられました。
- ・2年間の試験から「翔陽」は、重量に優れ、また芯が比較的小さいことから、加工用キャベツとして有望と考えられました。なお、2年間の試験では、いずれの品種にも、中枯れ（内部褐変症状）は見られませんでした。

（大分県大野川上流開発事業事務所営農改善班）